



とんとん峠

27号

(2010.08)

国立水俣病総合研究センター（国水研）から水俣湾を一望すると水俣の自然の豊かさを改めて実感させられる季節となりました。

本号は、平成二十二年度になって初めての発行となりますので、新たに国水研に赴任した職員の紹介と国水研の重要な一つの使命である国際貢献の記事です。とんとん峠を御覧になって頂き、少しでも国水研を知って頂けたら幸いです。

国水研は、水俣病に関しての総合的な調査、研究、そして国内外の情報の収集、整理及び提供を行うこととこれらに関連する研修の実施を目的として環境省の機関として熊本県水俣市に設置されています。

国水研は、わが国の公害の原点といえる水俣病とその原因となったメチル水銀に関する総合的な調査・研究、情報の収集・整理・研究成果や情報の提供を行うことにより、国内外の公害の再発を防止し、被害地域の福祉に貢献することをめざしています。



目次

●特集

『国水研の国際貢献活動』

●それいけ！研究者！

●国水研の動き（三月～七月）

●国水研からのお知らせ

●健康メモ

●編集後記

●アクセスマップ

●特集

『国水研の国際貢献活動』

水俣病に関する研究を目的として設立された国水研は、WHO（世界保健機関）の研究協力機関でもあり、国際・総合研究部を中心に、組織的に海外協力を行っています。国

水研で行われている国際貢献の内容について紹介しましょう。海外のある場所で水銀汚染問題が発生すると、先方からの要請を受けて、国水研から研究者が出向き、その状況を把握した上で適切な指導・助言を行います。場合によっては水銀汚染に関するセミナーを開くこともあります。また、水銀汚染が起きている国の研究者を受け入れての技術指導（水銀の測定法や廃液処理の方法など）やセミナーの開催も国際貢献の一つです。毎年水俣病情報センターで行うNEMDフォーラムもそういったセミナーの一つです。その他、ホームページや国際学会を通じて、水銀汚染のおこっている（可能性のある）地域からの毛髪を提供を呼びかけ、その測定結果を通

して、汚染状況を知らせるというの
もやはり国際貢献の一つです。これ
までに、このような形で国水研が関
係した国は、中国、インドネシア、
ベトナム、カザフスタン、ニカラグ
ア、ブラジルなど、十カ国以上にな
ります。

国際貢献は私たちのため

水銀は自然界に広く分布して
いますが、それはもともと地中に存在
していたものが、長い地球の歴史の
中で火山活動等により私たちの住
む環境、つまり地表に移行してきた
ものと考えられています。この水銀
の一部が、水の中の特殊なバクテリ
アによってメチル水銀に変化し、食
物連鎖によって魚介類やクジラ類
の体に蓄積していきます。世界には
水銀汚染が疑われる所、また現にお
こっている所もいくつかあります
が、それがすぐに人間の健康に影響
するケースは多くはありません。例
えば、以前国水研で調査した中国貴
州省の科学工場跡地では、明確な土
壌汚染にも関わらず、それによる住
民の水銀摂取の上昇はありません
でした。しかし、ある場所で環境に

放出された水銀は決してそこにと
どまっているわけではなく、時間と
ともに次第に広がり、やがては地球
全体に及びます。そのようなことが
ずっと続くと、自然環境中の水銀が
次第に増え、やがては魚介類やクジ
ラ類の水銀も増えていき、安心して
食へることができなくなる可能性
もあります。つまり、水銀を使って
いる地域に対して、汚染が起こらな
い（環境に放出しない）ように、そ
のノウハウを提供するということ
は私たち自身のためでもあるわけ
です。

水俣条約（仮称）に向けて

現在、UNEP（国連環境計画）
を中心に、水銀の規制に関する国際
条約の二〇一三年締結に向けて検
討が進められています。それに関す
る検討委員会が国内でも年に数回
開かれています。国水研からも出
席し、水銀研究者として意見を述
べています。今年の水俣病犠牲者慰霊
式に、現職首相として初めて出席し
た鳩山氏の言葉の中に、「条約の締
結を日本で行い、それを水俣条約と
名付けたい」といった内容がありま

した。水俣病を経験した日本は、世
界の水銀問題に関しても重大なミ
ッションが課せられています。



カザフスタンでの土壌汚染調査

金属のパイプを土の中にハンマー
で数十センチほどの深さに打ち込
みます。その後パイプを引き抜い
て、パイプの中の土に含まれる水
銀を測ります。

それいけ！研究者！

新任研究者紹介



疫学研究部調査室長
森 敬介

四月一日に九州大学より赴任して参りました。私と水俣との関わりは一九八〇年代後半に水俣湾の底生生物相や魚類（カサゴ）の食物連鎖による水銀蓄積機構の研究に九州大学の大学院生として、参加したことに始まり、教官となってからもこれらの研究を続けて、年に一度は水俣へ来ていました。縁あって国水俣で研究を続ける事となり、今後この研究を進めていくと共に、より発展させて、水俣湾・八代海の生態系総合調査とカサゴ以外の魚種の水銀蓄積機構の解明を進めていく予定です。

三月までは九州大学天草臨海実験所にて、学生に海洋生物学を教えると共に海洋生物の生態研究をしておりました。貝類、エビ・カニ類、

ウニ・ナマコやゴカイなど様々な海産底生動物を対象として、熊本県および日本各地の海で、どのような環境にどのような生物が生息し、それらはどのように結びついているかの研究をやってきました。大型研究としては有明海再生プロジェクトに参加し、「有明海全域に生息する底生生物相調査」の代表として、多数の新品種を含む様々な生物の生息状況を明らかにできました。

また熊本県の希少野生動物植物検討委員として熊本県の希少な生物の調査を行い、保護すべき生物の一覧としてレッドデータブック（RDB）の海洋生物の項目をまとめています。熊本県では、他の地域で絶滅あるいは激減した海洋生物が多数、健全な状態で生息していますが、水俣湾や八代海の調査は有明海や他の海域と比べて不十分な状況です。水俣湾や八代海は有明海と同等あ

るいはそれ以上の多様な生物が生息していると考えていますので、今後の調査研究が必要な状況です。

赴任してから水俣湾や周辺の海岸生物調査を始めました。水俣湾奥部の袋湾では熊本県のRDBにて取り上げられている甲殻類のハクセンシオマネキ、軟体動物のオカミミガイ、センバイアワモチ、シノミミミカイなどを発見しました。また出水の海岸ではイボウミニナという日本本土で健全な生息地が数箇所しか知られていない貝類も見つけました。水俣周辺の海岸環境が良好な状態で保たれている証拠だと思います。今後調査を続け、水俣湾および八代海のすばらしさを発信していくつもりです。興味がある方は今回出てきた種類について図鑑等で調べてみてください。

水俣湾や周辺の海岸で、胴長を履き、干潟や海岸に座り込んで、生物を観察し、採集しているのは、私と研究室メンバーです。生物に関する質問には何でも答えますので、気軽に声をかけてください。

国水研の動き

（平成二十二年三月～七月）

- 三月七日 小沢鋭仁環境大臣ほか来所
- 三月十六日 JICA国別研修（中国）
- 三月十七日 ウズベキスタン研究員一行来所
- 三月十八～十九日 国水研究評価委員会開催
- 三月二十六日 JICA研修（エジプト他三カ国）
- 四月一日 歴史的資料等保有機関指定
- 四月七日 平成二十一年度 介護予防等在宅支援のための地域社会構築推進事業報告会
- 四月二十七日 JICA九州所長ほか来所
- 五月一日 水俣病犠牲者慰霊式
- 五月九日 太地町における水銀と住民の健康影響に関する調査結果発表（太地町）
- 五月二十八日 福岡大学一行来所
- 五月三十一日 総合的水銀研究推進事業選考委員会開催（東京）
- 七月三日 第三回介助技術講習会
- 「認知症の本当の理解」
- 七月二十三～二十四日 国水研一般公開

お知らせ

★第十九回健康セミナーを開催しました♪

二月二十七日(土)水俣病情報センターにて第十九回健康セミナーを開催しました。

今回は、みのだ歯科医院院長、蓼田亮先生と水俣葦北衛生士会・はみがき隊の山田郁子先生に「口の中の健康を守るために」というテーマでご講演いただきました。蓼田先生からは、むし歯、歯周症、加齢に伴う口の機能の変化と予防について、山田先生からは口腔ケアと健口体操について、わかりやすく、楽しくお話しいただき「あっ!」という間の九十分でした。当日の様子は[こちら](#)を[こちら](#)をご覧ください。



★第二回介助技術講習会を開催しました♪

七月二日(土)に第三回介助技術講習会を開催しました。九州保健福祉大学准教授の小川敬之先生をお招きして「認知症の本当の理解」というテーマで講演していただきました。大雨の中の開催でしたが、たくさんの方々に参加していただき、とても好評でした。講習会の詳細は[こちら](#)をご覧ください。

★第二十回健康セミナーを開催しました♪

八月八日(日)に水俣病情報センターにて第二十回健康セミナーを開催しました。肥満外来を行っておられる堤隆二先生を御迎えして「やせるアイデア30」というテーマで講演いただきました。当日の様子は[こちら](#)を[こちら](#)をご覧ください。

★国立水俣病総合研究センター一般公開を行いました♪

七月二十三(金)〜二十四(土)に一般公開を行いました。当日の様子は[こちら](#)をご覧ください。

♥健康メモ

「足の健康」

足の水虫、外反母趾、巻き爪、二才イなどの足のトラブルで悩んでおられる方も多いのではないのでしょうか。足のトラブルと密接に関係しているのが、毎日履く靴です。靴が原因で起きる足の障害の代表格は水虫です。

水虫の原因となるのは「白癬菌」と呼ばれるカビの一種です。この菌は高温多湿な環境で繁殖します。足は一日で「ソックス半分くらい」の汗をかいたため、靴の中は高温多湿になり、水虫が発症しやすくなります。しかし、皮膚に菌がついたからといって、すぐに水虫になるわけではありません。菌が皮膚に侵入するのに二十四時間はかかると言われてます(傷がない場合)です。ですから、いつも清潔と乾燥を心掛けていけば水虫を予防することができます。

水虫を予防するために、

- ① つま先に1cmほど余裕がある靴をはく。
- ② 同じ靴をはき続けない。
- ③ 靴の内部の乾燥と清潔を保つ。
- ④ 靴下は吸湿性のある木綿かワールコットン。
- ⑤ 指の間をしっかりと洗い、乾かすなどを中心にしましょう!

(臨床部 宮本謙一郎)

編集後記 本日のとんとん峠

国水研の近くには、その昔、桶を作る職人さんが多く、トン・トンと木を叩く音が山に響き渡っていたそうです。その音からその地域は「とんとん」と呼ばれるようになり、「とんとんの峠」と呼んでいたのが「とんとん峠」の由来だそうです。この他にも「タヌキ説」「お船説」など諸説ありますが・・・。

皆さまに親しみのあるとんとん峠にあやかっって、「国水研だより」から「とんとん峠」へと名前を改めたこの広報誌。これからも可愛がっていただければ幸いです。よろしくお願ひします。

E-mail mail@nimd.go.jp
アクサスタンプ

